

次回のFOMCでの利上げに向けて～米FOMC議事録

2018年8月20日(月)

トルコ情勢に揺れる相場展開が続いていますが、今週は犠牲祭(イード・アル=アドハー)で21日から24日までがお休み、20日も前夜祭で祝日ですが、金融市場は短縮営業となるようです。このため、参加者が極端に減ります。

こうした中、市場はリラから主要通貨に注目が戻ると期待されます。注目材料は二つ。

一つは23日午前3時に公表される米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録です。

7月31日、8月1日に開催された前回のFOMCでは事前見通し通り政策金利(FF金利翌日物誘導目標)を現行の1.75%～2.00%に据え置くことを決定。

注目の声明では

景気判断について、従来の「堅調なペース」という表現を「強いペースで拡大」と引き上げました。

また、インフレ動向について、前回の(ターゲットである)「2%に一段と近づいた」から「引き続き2%付近で推移」とこちらも表現を上方修正しています。

景気の見通しについては、従来の「広範に均衡」という表現を維持しました。

声明内では市場が懸念していた通商摩擦問題を受けての景気への影響やイールドカーブのフラット化や逆イールドへの懸念、さらには住宅市場の鈍化への言及などやや不安視されていた項目への強い言及は見られず、今回の議事録でそのあたりが確認されることとなります。

9月の利上げについては、金利先物市場動向から見た利上げ確率が9割に上るなどほぼ織り込みが進んでいますが、その先、12月に利上げがあるかどうかはまだ見通しが分かれており利上げ確率は6割程度。議事録でこうした確率が持ち上げられるようだと、ドル買いにつながります。

二つ目は23日からのジャクソンホールシンポジウム。

カンザスシティ連銀が主催し、ワイオミング州ジャクソンホールでこの時期に毎年行われるこの経済シンポジウムには、よほどの理由がない限りFRB議長が出席し各国からも中銀総裁の出席があることで知られています。

毎年テーマは違いますが、中銀総裁からは金融政策の話があり今後の金融政策動向の大きなヒントになるということもあって、かなりの注目を集めるイベントとなっています。

今年のテーマは「変化する市場構造と金融政策への影響」、パウエルFRB議長が24日に出席することが、FRBの公式週間予定表で明らかになっています。

それ以外の出席者や講演内容については、例年通り開催初日に発表となりますので、どの国のどのようなメンバーが参加するのかは未定ですが昨年はドラギECB総裁、黒田日銀総裁がともに出席してパネルディスカッションに参加しており、今年も米国外からの参加者の出席について注目を集めそうです。(ちなみに昨年の場合黒田総裁の出席が発表されたのは公表の前日でしたぎりぎりまでスケジュールを明らかにしないシンポジウムの方針に気を使った形です)

パウエル議長が9月の利上げのみならず、年内のさらなる利上げに自信を見せるようだとドル買いの動きが強まる可能性があります。一方で通商問題などについて、懸念を強く示すようだとドル売りの可能性も。要注目していききたいところです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ